

平成27年度

シ ラ バ ス

桐生大学

別科 助産専攻

平成27年度 シラバス

科目名	助産学概論		担当者	鈴木由美	学科	別科助産専攻	開講期	前期							
区分	基礎領域	必修	単位 (時間)	1 (15)	学年		曜日								
授業の概要	助産とはなにか、その本質と意義、助産の歴史、助産の対象等の理解を基盤に、専門職としての助産師の業務、責務、倫理、役割への認識を深める。また助産師活動や助産師と教育・研究などについて教授する。母子保健や社会情勢と平行した助産師の活動及び教育、助産の歴史などを教授する。														
教育目標	助産の基本的理念、普遍的原理原則の理解をふまえて、助産師活動に対する現状と将来展望するために、母子保健の動向、助産や助産師活動の歴史、法的根拠、教育、倫理、研究活動の側面から理解する。助産師として就業してからも生涯教育が必要であることがわかる。														
到達目標	助産の本質、意義について基本的理念、普遍的原理原則の視点で理解する。 助産と助産師活動に対して国際的な視点も含めて、必要な助産師像について考える事ができ、将来展望を考えることができる。 専門職助産師のあり方について学問的、法的、倫理的、国際的に理解する。 母子保健の歴史と現状と助産師の役割を関連付けて理解する。 日本の助産師教育の実情を知り、今後の展望について考えることができる。														
授業計画															
回	主題		授業内容				備考								
第1回	助産とは何か		助産、助産師の定義、助産師業務				鈴木由美								
第2回	助産師の業務と助産師活動		マタニティサイクル（妊娠、分娩、産褥）/ライフサイクル（思春期、成熟期、更年期）における助産師業務、助産師の活動の場について				鈴木由美								
第3回	女性の健康と人権 ジェンダー リプロダクティブヘルス／ライツ		リプロダクティブヘルス/ライツと女性の健康にかかる権利、ジェンダーの問題、女性中心のケア、国際助産師連盟（ICM）について				鈴木由美								
第4回	助産に関わる法律、母子保健の関係法規		医療法、保育看護法、医師法、母子保健法、児童福祉法、地域保健法、戸籍法、刑法、民法、労働法、就業規則				鈴木由美								
第5回	助産師と倫理(GW)		助産における倫理、出生前診断・代理母・不妊・多胎・人工妊娠中絶などにおける倫理、ICMにおける倫理綱領（GW）				鈴木由美								
第6回	助産の歴史		お産の歴史、文化/古代から現代までの助産及び助産師の変遷/産育習俗 歴代の助産師について				鈴木由美								
第7回	助産、母子保健の歴史的背景		明治時代～平成に至る助産、母子保健の歴史、制度				鈴木由美								
第8回	助産師教育/卒後教育		助産師教育の変遷と実態及び国際的な比較/及び卒後教育について				鈴木由美								
教科書	医学書院 助産学講座1 基礎助産学 助産学概論、我部山キヨ子ら編 我が国の母子保健、母子保健の主なる統計（母子保健事業団）														
参考書	国民衛生の動向、母子保健ハンドブック（母子保健事業財団）														
成績評価	単位認定	60	点以上	出席・客観的試験（80%）、レポート（20%）による。											
授業時間外の学習	助産とは何か、時間外でも疑問をもち他の科目と結びつけ、助産師としてのアイデンティティ形成の機会を設けること。														
履修のポイント	助産とはなにかを知ること。分娩介助は助産技術の核であるものの、助産の全てではありません。助産師活動について基本的理念、普遍的な原理原則を知り、助産師としての基本姿勢を学ぶところで終結します。														
オフィス・アワー	平日の16：30-18時														

平成27年度 シラバス

科目名	人間の性と生殖		担当者	黒澤やよい	学科	別科助産専攻	開講期	前期
区分	基礎領域	必修	単位 (時間)	1 (15)	学年		曜日	
授業の概要	いのちを育む機能を持つ女性のからだの構造と機能を理解し、健やかな発達と豊かな母性の発展をサポートするための知識を教授する。							
教育目標	人間の性と生殖について身体的、心理・社会的に理解を深め、助産師として必要な知識を習得する。							
到達目標	①女性の性・生殖に関する解剖生理的側面について理解する。 ②女性の健康を守るためのセルフケアと健康管理方法について学ぶ。 ③女性を取り巻く性的健康を脅かす健康問題について学ぶ。							

授業計画

回	主題	授業内容			備考			
第1回	女性の体の仕組み①	生殖器の解剖と性差、分娩との関連性						
第2回	女性の体の仕組み②	性周期とホルモン・妊娠とホルモン						
第3回	女性のフィジカルアセスメント	内診・膣鏡診・細胞診・性感染症検査 超音波検査・栄養価評価						
第4回	ライフサイクルとセクシュアリティ	思春期・成熟期 中高年期の女性の特徴とケア						
第5回	性科学	性科学の概念とセクシュアリティ 性カウンセリング・妊娠と性行動						
第6回	性感染症とヘルスプロモーション	性感染症の疫学、診断とケア、妊娠・出産・育児と性感染症						
第7回	性と生殖をめぐる問題①	不妊・DV(ドメスティックバイオレンス) 月経障害						
第8回	性と生殖をめぐる問題②	セクシアルヘルスとリスク回避行動 性教育・家族計画と避妊法						
教科書	助産学講座2 基礎助産学 母子の基礎科学 医学書院、我部山キヨ子ら編 助産学講座3 基礎助産学 母子の健康科学 医学書院、我部山キヨ子ら編							
参考書	メディックメディア「病気が見える」（婦人科編）							
成績評価	単位認定	60	点以上	出欠と記録物、及び筆記試験、グループワークにおける発言の積極性、講義における積極性等も含めて60%以上の水準に達していること。講義、GWの取り組みなどの姿勢も考慮する。				
授業時間外の学習	生殖器に関する解剖学・生理学および母性看護学等の復習とまとめ							
履修のポイント	単位認定は60点以上							
オフィス・アワー	9~18時の在室時 kurosawa-ya@kiryu-u.ac.jp							

平成27年度 シラバス

科目名	妊娠・分娩・産褥の生理		担当者	黒澤やよい 木村優子 古賀裕子	学科	別科助産専攻	開講期	前期													
区分	基礎領域	必修	単位 (時間)	1 (15)	学年		曜日														
授業の概要	妊娠・分娩・産褥の生理的経過を理解し、各時期の母子に起こる生理的変化に対応するための基盤となる知識を教授する。また正常経過を知る事により、正常から逸脱する可能性があること、逸脱していることが判断できるための知識を関連づけて学ぶ。																				
教育目標	基礎看護教育での学びを基盤に、助産をするうえで必要な解剖、生理的な知識を深く理解する。正常経過をたどる妊娠産褥婦のケアに際して、根拠となる知識を活用してアセスメントできることを目的とする。また解剖生理的な知識のなかで、身体的な経過が正常か異常かの見極めができる知識の習得を目的とする。																				
到達目標	1. 胎児の発育と妊娠の成立について学ぶ。 2. 妊娠の経過に伴う母体の変化を学ぶ。 3. 分娩の機序と母子に及ぼす影響を学ぶ。 4. 産褥の退行性変化と進行性変化を学ぶ 5. 各期に起こりやすい逸脱と観察の必要性を学ぶ。																				
授業計画																					
回	主題		授業内容				備考														
第1回	胎児の成長と発達、胎児付属物等について		初期発生と器官形成、胎児の発育と生理、胎児付属物の形態と機能、臨界期等				黒澤														
第2回	妊娠の成立と維持		妊娠の成立、妊娠成立後の母体の変化、ホルモン動態、				黒澤														
第3回	妊娠経過に応じた母体の変化		妊娠時期に応じた母体の生理的変化と正常な妊娠経過（精神的な変化等も含む）について				黒澤														
第4回	分娩の生理（1）		分娩の概念・分娩の3要素				古賀														
第5回	分娩の生理（2）		分娩の経過と所要時間・分娩の機序①				古賀														
第6回	分娩の生理（3）		分娩の機序②、分娩が母体・胎児に及ぼす影響				古賀														
第7回	産褥期の生理		産褥期の身体的变化、全身の变化				木村														
第8回	産褥期の生理		退行性変化、進行性変化、性周期の再開				木村														
教科書	助産学講座5, 6, 7, 8助産診断・技術学Ⅰ、Ⅱ妊娠期・分娩期・産褥期、医学書院、医学書院 助産学講座2、基礎助産学 母子の基礎科学、我部山キヨ子ら編 プリンシップル産婦人科学 武谷雄二他																				
参考書	メディックメディア「病気が見える」（産科編）																				
成績評価	単位認定60点以上	この分野の国家試験を意識した内容での筆記試験とする。																			
授業時間外の学習	生殖器に関する解剖学・生理学および母性看護学等の復習とまとめ																				
履修のポイント	知識を暗記するのではなく、診断・ケアの根拠となるように学ぶこと。																				
オフィス・アワー	9~18時の在室時 kurosawa-ya@kiryu-u.ac.jp, kimura-yu@kiryu-u.ac.jp, koga-yu@kiryu-u.ac.jp																				

平成27年度 シラバス

科目名	ハイリスク妊娠・分娩・産褥		担当者	鏡/島村/矢崎/ 須藤/茂木	学科	別科助産専攻	開講期	前期													
区分	基礎領域	必修	単位 (時間)	1単位 (15時間)	学年		曜日														
授業の概要	母子保健環境は各方面の努力、進歩によって改善されてきた。乳児死亡率、早期新生児死亡率も世界のトップクラスにあり、低率である。しかし母体死亡率については更に努力を重ねる必要がある。出産は生理的なものとはいえ、妊娠中に起こりうる異常について学び、母子ともに安全な出産に臨めるよう十分な知識を習得しなければならない。以下の授業テーマに基づき講義をする。																				
教育目標	この講義では周産期におけるハイリスク（妊娠、分娩、産褥の異常）について医学的な知識を学ぶことを目的とする。																				
到達目標	妊娠、分娩、産褥の異常及び主な合併症、疾患の原因、症状、診断、治療、予防対策について理解する。																				
授業計画																					
回	主題		授業内容				備考														
第1回	妊娠の異常 妊娠持続期間の異常		妊娠悪阻、子宮外妊娠、頸管妊娠 流産、早産、過期産、抗リン脂質抗体症候群、頸管無力症、绒毛膜羊膜炎																		
第2回	妊娠高血圧症候群		P I H、子癇、H E L L P、常位胎盤早期剥離																		
第3回	胎児及び附属物の異常Ⅰ		前置胎盤、癒着胎盤、胞状奇胎、子宮内胎児死亡 子宮内胎児発育遅延、羊水過多、羊水過少																		
第4回	胎児及び附属物の異常Ⅱ		多胎妊娠、P R O M、切迫早産、血液型不適合妊娠 急性虫垂炎、婦人科疾患合併症																		
第5回	合併症妊娠		呼吸器、循環器、血液、膠原病、甲状腺、精神科 糖代謝異常合併妊娠																		
第6回	母子感染症		風疹、サイトメガロ、伝染性症紅斑、水痘、A T L 単純ヘルペス、B型肝炎、C型肝炎、H I V、梅毒 G B S、トキソプラズマ、クラミジア																		
第7回	分娩の異常		分娩進行に関係する異常 微弱陣痛、過強陣痛、C P D、胎位異常 胎勢異常、進入の異常、肩甲難産 臍帶の異常、胎児機能不全、仰臥位低血圧症候群 分娩時裂傷（子宮破裂、臍会陰裂傷、血腫） 子宮内反症、弛緩出血、羊水塞栓、産科D I C																		
第8回	産褥の異常		産褥熱、血栓症、産褥精神障害																		
教科書	助産学講座1 助産診断・技術学Ⅱ、妊娠期・分娩期・産褥期、医学書院、メディックメディア「病気が見える」（産科編）、プリンシブル産婦人科学 武谷雄二他																				
参考書																					
成績評価	単位認定 60 点以上	出席日数、試験をもって評価する。																			
授業時間外の学習	関心を持ち、十分な予習をして臨むこと																				
履修のポイント	臨床現場に沿ったものを講義していきたい。重要な点は講義のなかで指摘するつもりである。																				
オフィス・アワー																					

平成27年度 シラバス

科目名	新生児・乳幼児の生理と病態		担当者	針谷 晃	学科	別科助産専攻	開講期	前期							
区分	基礎領域	必修	単位 (時間)	1 15	学年		曜日								
授業の概要	新生児期における助産師の役割は、生まれてきた新生児の一人一人にふさわしい医療を提供し、家庭での生活がスムーズに始まるよう協力することにあると思います。この授業では、新生児期に発症する疾患の病態生理について説明します。														
教育目標	この講義では、胎児、新生児期の生理、新生児期の疾患に関する理解や一次医療機関における適切な対応、育児に関する基本的知識の修得を行うとともに、疾病を有する児の家族への対応や新生児医療における倫理について学ぶことを目的としています。														
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 新生児の生理を理解する。 新生児に起こりやすい疾病的病態と治療について理解する。 新生児蘇生の技術を学ぶ。 遺伝的疾患とその家族への対応について学ぶ。 														
授業計画															
回	主題	授業内容					備考								
第1回	新生児学総論	<ul style="list-style-type: none"> 新生児の定義、分類、新生児医療における用語 発育・発達とその評価 													
第2回	新生児診断学 新生児の管理	<ul style="list-style-type: none"> 新生児の診察法、検査について 各種モニター機器、主要な異常所見とその対応、新生児の養護と管理、家族への援助、母子相互作用、医療事故、新生児医療と医の倫理 													
第3回	新生児の生理 新生児の呼吸器疾患	<ul style="list-style-type: none"> 体温調節と保温、栄養の基礎と臨床、水一電解質バランス 新生児の呼吸器疾患（呼吸窮迫症候群、黄疸、消化器疾患、胎便吸引症候群、新生児一過性多呼吸、新生児慢性肺疾患、肺炎、気胸・気綻隔、横隔膜ヘルニア）について、 													
第4回	新生児蘇生法実習	<ul style="list-style-type: none"> 蘇生法の実習 													
第5回	新生児の循環器疾患 黄疸、消化器疾患	<ul style="list-style-type: none"> 新生児期に発症する循環器疾患（チアノーゼ型先天性心疾患、新生児遷延性肺高血圧症） 黄疸をきたす疾患（特発性黄疸、溶血性疾患、遷延性黄疸、先天性胆道閉鎖症）、新生児期の消化器疾患 													
第6回	血液疾患 免疫・感染症	<ul style="list-style-type: none"> 多血症、新生児メレナとビタミンK欠乏性出血症について 新生児期の重要な感染症（TORCH症候群、敗血症、ウイルス感染症、B型肝炎母子感染予防） 													
第7回	神経疾患 内分泌・代謝系疾患	<ul style="list-style-type: none"> 新生児期の神経疾患（新生児仮死、低酸素性虚血性脳症、頭蓋内出血、髄膜炎）について 先天代謝異常スクリーニング、低血糖、先天性副腎皮質過形成、クレチン症等について 													
第8回	遺伝カウンセリングについて	<ul style="list-style-type: none"> 奇形と奇形症候群、遺伝カウンセリング 													
教科書	『新生児学入門第3版』仁志田博司著、助産診断・技術学II[3]「新生児期・乳幼児期」 医学書院														
参考書	「日本版救急蘇生ガイドライン2010に基づく 新生児蘇生法テキスト」改訂第2版 監修 田村正徳 メディカルビュー社														
成績評価	単位認 60 点以上出席重視、レポート提出60点以上を合格とする。														
授業時間外の学習															
履修のポイント															
オフィス・アワー															

平成27年度 シラバス

科目名	母子の栄養科学		担当者	旭 久美子	学科	別科助産専攻	開講期	前期						
区分	基礎領域	必修	単位	1単位	学年		曜日							
			(時間)	(15時間)			時限							
授業の概要	妊娠期、授乳期、新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、の各ライフステージについて生理的・精神的特徴を踏まえ、栄養状態の変化、栄養アセスメントの方法、栄養ケアのあり方について講述する。特に妊娠期・授乳期は生涯にわたる基礎作りのステージであるので、母子の栄養管理について学習する。また、栄養アセスメントに必要な食事摂取基準(2015年度版)についても講述する。													
教育目標	助産師として妊婦・授乳婦に指導する場面で、必要な母子の栄養についての基礎知識を学習する。													
到達目標	1. 母子のアセスメントを踏まえて、適切な栄養について理解する。 2. 食事摂取基準を理解する。													
授業計画														
回	主題		授業内容				備考							
第1回	母子の栄養 1		妊娠婦の食事バランスガイド											
第2回	母子の栄養 2		妊婦の病態と栄養											
第3回	母子の栄養 3		妊婦の病態と栄養											
第4回	母子の栄養 4		産婦の病態と栄養											
第5回	母子の栄養 5		褥婦の病態と栄養											
第6回	母子の栄養 6		乳幼児の栄養・思春期の栄養											
第7回	食事摂取基準		食事摂取基準 (2015年版) (1)											
第8回	食事摂取基準		食事摂取基準 (2015年版) (2)											
教科書	応用栄養学(第3版) 瀧本知憲・宮谷秀一編集 (化学同人)													
参考書	食事摂取基準 (2015年版) の小冊子を配布する													
成績評価	単位認定 60 点以上 前期定期試験 (定期試験70%, 提出物30%を総合して評価する)													
授業時間外の学習	課題を行うこと。													
履修のポイント	復習と予習を行うこと													
オフィス・アワー	月・火・木曜日の昼休み、11号館18研究室にて対応													

平成27年度 シラバス

科目名	母性・父性の心理・社会学		担当者	篠原貴子	学科	別科助産専攻	開講期	前期										
区分	基礎領域	必修	単位	1単位	学年		曜日											
			(時間)	(15時間)			時限											
授業の概要	女性のライフサイクルにおける大きな節目となる妊娠前後の女性が抱える問題について、心理学的社会学的側面から検討する。特に、母子関係のあり方を中心として、女性のメンタルヘルス、父親の役割と育児への関わり方、子どもの虐待、ドメスティックバイオレンス、カップル関係、育児支援に関する問題を取り上げると共に、近代以降の家族の歴史についても扱う。																	
教育目標	母性・父性に関する知識を学び、妊娠婦として女性の心理的特徴・社会的役割についての理解を深め、助産師としての実践に応用できることを目的とする。																	
到達目標	母性・父性に関する理解を深め、母子関係の形成に生じる心理学的理論や問題の背景に対する知識を学び、それらの問題に対する実態を認識、把握することで、問題解決に向けた支援のあり方を考える力を培う。																	
授業計画																		
回	主題		授業内容				備考											
第1回	イントロダクション		母性・父性の研究、女性のライフサイクル															
第2回	女性のメンタルヘルス		妊娠と出産をめぐるメンタルヘルス															
第3回	親子関係の問題Ⅰ		母子関係の理論															
第4回	親子関係の問題Ⅱ		母子関係における問題と父親の役割															
第5回	家族の問題		子どもの虐待、カップル関係															
第6回	家族と社会		近代以後の家族の歴史															
第7回	親子関係の援助		問題の発見と子育て支援															
第8回	まとめ		課題と展望															
教科書	助産学講座4 基礎助産学〔4〕母子の心理・社会学 医学書院																	
参考書	授業時に随時紹介																	
成績評価	単位認定	60 点以上	筆記試験、授業中の態度、リアクションペーパーで総合評価を行う。															
授業時間外の学習	授業内容に関して、意欲的に学習する。																	
授業時間外の学習																		
履修のポイント																		
オフィス・アワー	授業日の、授業開始前もしくは終了後に教室等で相談に応じます。																	

平成27年度 シラバス

科目名	助産診断・技術学概論		担当者	鈴木 由美	学科	別科助産専攻	開講期	前期											
区分	実践領域	必修	単位 (時間)	1 (15)	学年		曜日												
							時限												
授業の概要	助産診断・技術学は助産学を構成する重要な柱の一つである。ここでは助産診断学、技術学に大別し、助産師の専門職性と合わせて概説する。妊娠分娩産褥は本来ウェルネス型診断を用いることによりレベルの高い状態への変化、良好な状態の維持に有効で対症のQOLを向上させる。ウェルネス志向とは異常の早期発見という視点から入らず、まず対象の強みに着目し、正常経過をたどれるかどうかの診断をし、逸脱しそうな場合は助産師のケア、指導で逸脱せずに経過できるかどうかを見極めると一連の思考過程を学ぶことであり、異常を見逃すことではない。妊娠婦の強みに視点をあて問題や課題が無い場合でもより良い状態が維持できるようにケア計画を立案するため、質の高いケアが提供できる。講義ではこうした診断の視点と展開の方法の枠組みについて教授し、各論において事例をもとに展開する方法を学ぶための橋渡しとする。助産技術では助産師が法的に独自で判断して行う技術とその到達度について触れ、助産師教育で求められる助産師の役割と機能についても教授する。																		
教育目標	妊娠、分娩、産褥の各時期における思考過程（助産過程）について理解する。また一連の助産過程に基づく助産技術についての理解する。																		
到達目標	1. 助産師の専門職性と診断との関係を理解する。 2. 助産診断が助産師の職能特有のものであること、看護診断、医学診断との境界域や共同問題について理解する。 3. 一連の助産過程（診断過程、実践過程）の展開の方法がわかる。 4. マタニティサイクルの助産診断ではウェルネス型診断を中心に理解する。 5. 正常域との境界線が明確に診断できることの重要性を理解する。 6. 各論では事例を用いた助産過程へと発展できる。																		
回	主 题	授 業 内 容					備 考												
第1回	助産診断・技術学とは	法律に基づく助産師業務に基づく助産診断・技術学の概念																	
第2回	助産診断の概要（その1）	助産診断とは何か、助産師のケア実践の範囲について																	
第3回	助産診断の概要（その2）	助産診断類型について 診断名ラベルの意味について (ウェルネスに基づくマタニティサイクルの助産診断)																	
第4回	ウェルネスVSイルネス	ウェルネスとイルネスの相違、ウェルネス型助産診断と実在型、リスク型、可能性型助産診断の表現と考え方の相違について																	
第5回	助産診断過程について	一連の助産診断過程について 実例を検証する																	
第6回	助産実践過程について	ケア計画立案と実践、評価について 実例を検証する																	
第7回	助産技術と 実践過程について	助産技術と実践過程の統合のしかたについて																	
第8回	対象の全体像を とらえるために	女性中心のケア (Woman centered care)について 身体的な現象に即した社会的、心理的背景の大切さについて																	
教科書	自作資料。医学書院 助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ、我部山キヨ子ら編																		
参考書																			
成績評価	単位認定 60 点以上 出席状況、定期試験で60%以上の得点で単位認定とする。																		
授業時間外の学習	課題をクリアするためには時間外で看護診断、看護過程などの復習が必須。																		
履修のポイント	対象者に則した助産過程を展開する意義及びケアを実践するための助産技術を理解し、それぞれの時期の対象者の助産過程が展開できるための基礎とする。助産診断と助産技術の関係性が強く、技術の裏付けには診断があることを理解する。課外での予習は必須で、1回毎の講義の復習、次回の予習をもって理解を深める。																		
オフィス・アワー	平日の16：30-18時																		

平成27年度 シラバス

科目名	助産診断学		担当者	鈴木由美、黒澤やよい 木村優子、生方和美	学科	別科助産専攻	開講期	前期						
区分	実践領域	必修	単位 (時間)	2 (60)	学年		曜日							
授業の概要	妊娠期、分娩期、産褥期/新生児期の助産過程について教授する。ここではまず一つの事例において情報を統合して診断するまでの思考過程を実例をあげて教授し、まずはグループで助産過程を展開し、個人でも助産過程が展開できるように教授する。分娩期においては知識は予習参加型とし、講義ではOSCE（オスキー、Objective Structured Clinical Examination）に準じた方式を取り入れ、グループディスカッションを基本でグループ討議をし、助産過程は個人で行う。正常の逸脱が予測される場合はケアや指導で解決できるように計画し、正常を逸脱した場合は医師との共同問題として看護計画を立案できる。大切な観察の視点、情報の解釈と統合の方法、ケアの計画及び修正、ケアを実施した場合の評価、考察についても実例をあげて説明し、助産学実習において実践し、助産師としての視点で実践できる基本とする。異常症例についてはハイリスクに関する講義で症状など観察とケアを学習し、助産師の視点で妊産婦の全体像をとらえながらケア実践できるようになる。													
	講義ではロールプレイ、実在のペーパーシミュレーションの事例を通して診断、ケアプランが立案できる。ケアプランを実施した場合の実例をもとに、評価、考察を行い、プランの修正ができる。ハイリスクの場合は他の講義で学んだハイリスクの観察のための知識を活かし、看護者がすべきケアを学ぶ。													
到達目標	1. 妊娠、分娩、産褥・新生児期の一連の助産過程を展開できる。 2. 正常を逸脱する可能性がある場合、必要な保健指導を企画・展開できる。 3. 正常を逸脱した場合でも医師との共同問題としての看護過程を展開することができる。													
授業計画														
回	主題		授業内容				備考							
第1回	妊娠期の助産過程の特徴		妊娠各期における一連の助産過程の考え方、情報収集方法				黒澤							
第2回	妊娠期のマイナートラブル		妊娠期に起こりやすいマイナートラブルの予防と対処について				黒澤							
第3～10回	妊娠期の助産過程 (初期) (中期) (後期) (末期：分娩直前)		事例の看護過程展開：情報の解釈、診断、助産目標、ケア計画、個人ワーク後、グループワークでロールプレイ実施、評価				黒澤							
第11回	分娩期の助産診断について		正常分娩の情報収集とアセスメント、分娩の予測/診断とケアの一連の過程について（初産婦の模擬事例）				鈴木/古賀							
第12回							鈴木/古賀							
第13回	事例展開（前期破水）		前期破水の事例展開/診断とケアについての討議				鈴木							
第14回							鈴木							
第15回	事例展開（微弱陣痛/促進）		微弱陣痛の事例展開/診断とケアについての討議				鈴木							
第16回							鈴木							
第17回	事例展開（経過が早い初産婦/巨大児/予定日超過）		経過が早い産婦の事例展開/討議				鈴木							
第18回							鈴木							
第19回	産科手術 帝王切開		帝王切開/無痛分娩、				黒澤							
第20回	正常逸脱の事例の助産診断 (医師との共同問題と 看護ケア)		分娩機転などの異常（回旋異常、不正軸進入、胎位異常/骨盤位）				鈴木							
第21回			分娩経過中の逸脱 出血因子（弛緩出血、子宮破裂等）				鈴木							
第22回			母体合併症（妊娠高血圧症、妊娠糖尿病） 異常分娩（多胎、IUGR）等の診断とケア				鈴木							
第23回	産褥期の助産診断		褥婦の助産診断				木村							
第24回							木村							
第25回	新生児期の助産診断		新生児期の助産診断				黒澤							
第26回～ 第28回	母子を統合した助産診断		助産過程の展開（産褥期）GW				木村							
第29回～ 30回	NICUにおける新生児のケア (1)～(2)		正常を逸脱した新生児のケアの実際を学ぶ				生方和美							
教科書	医学書院 助産学講座6, 7, 8 助産診断・技術学II（妊娠期、分娩期、産褥期）我部山キヨ子ら編 新生児プリンシブル産婦人科学 武谷雄二他													
参考書	ウェルネスからみた母性看護過程 医学書院、 今日の助産、北川真理子、南江堂													
成績評価	単位認定 60点以上 国家試験出題基準も考慮した筆記試験による。													
授業時間外の学習	分娩期の助産診断においては予習参加型の学習を期待する。個人で事例の助産過程を展開し、最後に提出する。													
履修のポイント	助産学実習で必須となる思考過程であり、ケアに必要な判断力を養う科目である。実際の妊産婦の事例を用いてグループワークから次第に個人で助産過程を展開できるようにし、助産過程のポイントが分かるように講義を展開する。展開したものについて一定の水準まで到達できない場合は個人指導する場合がある。													
オフィス・アワー														

平成27年度 シラバス

科目名	助産技術学		担当者	鈴木由美、黒澤やよい 木村優子、古賀裕子、 矢島英彦ほか	学科	別科助産専攻	開講期											
区分	実践領域	必修	単位	2	学年		曜日											
			(時間)	(60)			時限											
授業の概要		周産期の助産技術助産診断とケアに必要な技術をEMB、NBMの視点から演習を通して習得する。助産技術学は診断学と切り離すことができない分野であり、常に助産診断と並行した技術が用いられる教授する。計測ができるだけでなく計測値や観察した事項をアセスメントしながら次の実践ができることが大切である。また緊急時、異常時においては、ハイリスク妊娠分娩産褥で学んだ知識を観察の視点とし、ここでは看護者がるべき行動についても教授する。分娩期においては知識に関しては予習のうえ、演習ではOSCE（オスキー、Objective Structured Clinical Examination）に準じた方式を取り入れ、グループワークを基本とする。																
教育目標		妊娠期、分娩、産褥期、新生児期の助産技術の基本を学び、EBMを理解し、実践できる。																
到達目標		1. 妊娠期では妊婦の健康診査に必要な助産技術、分娩期では産婦の分娩介助を中心とした技術、産褥期、新生児期では産後の母体、新生児観察のために必要な助産技術を習得する。 2. それぞれのEBMを理解し、助産診断に基づいて実践できる。 3. 妊娠期では超音波断層撮影を体験する。 4. 異常、緊急時における技術を学び、具体的なイメージがわかる。																
授業計画																		
回	主題		授業内容				備考											
第1回 ～4回	(妊1) ～ (妊4)	妊婦の健康診査と観察・技術	健康診査に必要な観察・技術・NST (問診と妊婦健診の技術)				黒澤											
			生活を整える技術(着帯・姿勢・動静) 骨盤位矯正法															
第5回	(妊5)	妊娠期の超音波診断技術	妊娠期の超音波診断の実際について				矢島											
第6回	(妊6)	妊娠期の超音波診断技術	妊娠期の超音波診断の実際について				矢島											
第7回	(分7)	NST・CTGモニターについて	胎児心拍モニタリングの実際と判読方法				鈴木											
第8回	(分8)	分娩期の診察技術	産婦の観察について；外診、内診技法（講義）				鈴木											
第9回	(分9)	内診技術	内診の技術（演習）				鈴木											
第10回	(分10)	分娩介助技術①	一連の分娩経過と技術（講義・DVD）				鈴木											
第11回	(分11)	分娩介助技術②	分娩介助法（演習用DVD）、分娩環境整備と物品				鈴木											
第12回 ～13回	(分12) (分13)	分娩介助の実際	分娩介助の実際 demonstration 2回				鈴木											
			分娩と産痛緩和 呼吸法とリラクゼーション、補助動作、マッサージ他				鈴木											
第14回	(分14)	分娩と産痛緩和					鈴木											
第15回	(分15)						鈴木											
第16回	(分16)	胎盤/出血量等のアセスメント	胎盤と出血量の測定（講義と演習）産婦のアセスメント				鈴木											
第17回	(分17)	産道の損傷への対処とケア/ フリースタイル分娩	会陰切開と自然裂傷 分娩期 の縫合技術（講義・演習）				鈴木	/フリースタ イル分娩 (DVD)										
第18回	(分18)																	
第19回	(分19)	フリースタイル分娩介助	ファントムを用いて実際フリースタイル分娩介助を行う				高木											
第20回	(分20)	分娩期の診断と技術	補足とまとめ／産褥期へのつなぎ				鈴木											
第21回	(褥21)	産褥期の技術	乳房の観察と診断技術				木村											
第22回	(褥22)	産褥期の技術	授乳技術と乳房ケア				木村											
第23回	(褥23)	産褥期の技術	全身の回復と診断				木村											
第24回	(褥24)		子宮復古の観察と対処				木村											
第25回	(褥25)	新生児の診断援助技術 (1)～(2)	出生直後からの新生児の観察技術・計測とケア				黒澤											
第26回	(褥26)						黒澤											
第27回	(褥27)	育児援助技術	新生児の身体計測、沐浴指導、哺乳介助（演習）				木村											
第28回	(褥28)						木村											
第29回	(褥29)	産褥期の援助技術	子宮収縮測定、ラッチオン、ポジショニング、乳房マッサージ				木村											
第30回	(褥30)						木村											
教科書	医学書院 助産学講座6,7,8 助産診断・技術学Ⅱ（妊娠期、分娩期、産褥期）我部山キヨ子ら編 プリンシプル産婦人科学 武谷雄二他 助産学講座3 基礎助産学3 母子の健康科学																	
参考書	助産師のためのフィジカルエグザミネーション、大石時子 医学書院																	
成績評価	単位認定	60	点以上	実技テスト（分娩介助）と筆記試験														
授業時間外の学習	分娩期の助産技術においては時間外で演習を期待する。助産診断に基づく演習をするため予習参加が必須。																	
履修のポイント	助産学実習で用いる技術として必修項目である。演習時は白衣着用で身だしなみも注意すること。																	
オフィス・アワー																		

平成27年度 シラバス

科目名	保健指導技術概論		担当者	鈴木由美 木村優子	学科	別科助産専攻	開講期	前期						
区分	実践領域	必修	単位 (時間)	1 (15)	学年		曜日							
授業の概要	健康問題に関連した保健指導、相談指導、学級活動の基本となるコミュニケーション、相談技法、教育技法等の概念、意義を教授し、集団指導、個人指導の企画をするために必要な基礎を教授する。また保健指導における助産師に期待される姿勢を考える。保健指導の時期別各論で保健指導の展開につなげられるように教授する。													
教育目標	助産師活動における個人指導、集団指導の概念を理解し、適切な方法での企画、コミュニケーション技法を習得する。													
到達目標	1. 保健指導の理論、目的、方法について理解する。 2. 個人指導において個別性を考慮したインタビュー方法を学び、情報収集をすることができる。 3. 個人指導の特徴が理解でき、各論における妊娠中期～産褥1ヶ月までの指導計画に移行できる。 4. 集団指導の特徴が理解でき集団指導（出産準備教室その他）を企画展開する技法を修得できる。 5. 助産過程に基づく対象に合わせた保健指導の指導案、媒体など一連の保健指導過程を理解する。 6. 助産師、指導者として対象者に対する指導におけるコミュニケーション、礼節を踏まえた関わり方について考えることができる。													
授業計画														
回	主題		授業内容				備考							
第1回	保健指導とは何か		健康教育、保健行動、行動変容、動機付け理論について				鈴木							
第2回	教育・相談、指導のコミュニケーション技術		保健指導における人間関係、様々な教育技法、コミュニケーション技術、礼節について、助産師の態度、姿勢、および個人の相談技術、カウンセリング、電話相談、家庭訪問等について				鈴木							
第3回	個人指導と集団指導		それぞれの特徴/相違				木村							
第4回	集団指導の展開について		集団指導のリーダーシップ、教育技法、場の設定について、5W1Hに基づく企画、目標の設定、展開の方法、及び評価方法について、企画書の作成				木村							
第5回	指導媒体の作成について		指導媒体の作成について、見易さ、適切な挿絵、写真の使い方、表現についての留意点				鈴木							
第6回	個人指導の段階とプロセス		個人指導の段階、助産師と対象の人間関係構築のプロセス、助産過程に基づく個人指導の目標などについて				木村							
第7回	個人指導の方法について		個人指導の展開の方法、健康教育指導案の書き方：個人の特性の表現方法、指導目標の立て方、修正の方法、評価のしかた				木村							
第8回	保健指導における言葉の重要性		聴衆のエンパワーメントを高める関わり、言葉の大切さ、言葉遣い、態度、助産師としての姿勢				鈴木							
教科書	医学書院 助産学講座5 助産診断・技術学 I													
参考書	マタニティサイクルの実践保健指導（妊娠期）鈴木由美、マタニティサイクルの実践保健指導（産褥期）鈴木由美、丸善プラネット出版、参加型マタニティクラスBOOK 戸田律子 医学書院													
成績評価	単位認定 60 点以上 出席状況、グループワークでの積極性、協調性、基礎理論の習得状況を試験、レポートなどから評価する。													
授業時間外の学習	指導に必要な具体的な内容を調べる。企画書・指導案の作成。													
履修のポイント	保健指導の指導案立案以前に企画をするところが非常に大切になる。特に集団指導の展開においてはこのことが理解されていないと指導計画は成功しない。													
オフィス・アワー	火曜日～木曜日													

平成27年度 シラバス

科目名	保健指導技術		担当者	鈴木由美、黒澤やよい 木村優子、古賀裕子	学科	別科助産専攻	開講期	前期							
区分	実践領域	必修	単位 (時間)	2 (60)	学年		曜日								
授業の概要	妊娠～出産、育児および女性の性と生殖ははウェルネス診断が基本である。従ってウェルネス志向の助産過程にもとづき、まずは正常に経過できているかどうかを診断し、異常に傾きそうな問題或は課題があれば保健指導によって異常に傾くことを回避し、問題がない場合はよりよい状態または良い状態を維持するための保健指導の実際を学ぶ。 個人指導においては助産診断に基づく保健指導の立案の方法、及び集団指導の企画、運営、展開の演習を行う。順序として最初に集団指導で展開するための方法を学び、次に助産過程事例に基づき、社会的、精神的な部分も含めた個別性を考慮する方法について学ぶ。														
教育目標	助産師として必要な個人・集団指導の企画・展開方法を習得する。また対象者に応じて保健指導技術の方法を選択し、効果的に展開することができる。														
到達目標	1. 保健指導の企画、展開の方法を学び、対象者に応じた指導が実施できる。 2. 思春期、更年期等の女性の健康講座などを企画する方法を学ぶ。 3. 妊娠期、産褥期・新生児期の保健指導案を立案することができる。 4. 妊娠期、産褥期・新生児期の保健指導案に基づいて展開することができる。														
授業計画															
回	主 題		授 業 内 容				備 考								
第1回	初診時の問診		初診時における問診				鈴木								
第2回	初回インタビュー		初回インタビューの実際について				鈴木								
第3-4回	妊婦の視点で物を見る		情報収集の方法とスーパー・マーケットツーリズム				鈴木2/古賀1								
第5回			ツーリズムの視点をどのように指導に生かすか（討論）												
第6回	妊娠中期における保健指導		妊娠中期の保健指導案の作成とロールプレイ (出産育児準備、体重管理、母乳について、バースプラン)				黒澤								
第7回			妊娠中期～後期における保健指導												
第8回	妊娠後期における保健指導		妊娠中期～後期の保健指導の作成とロールプレイと体験 (貧血予防、早産予防、日常生活の動静)				黒澤								
第9回			妊娠後期の保健指導案作成とロールプレイ（腹部増大に則した日常生活の工夫、バースプランの確認、分娩前兆、入院の時期と方法、異常の観察）、産痛緩和法・分娩経過中の動静の体験学習												
第10-11回	妊娠期における集団指導の展開（模擬マタニティクラス）		出産準備教育（集団指導：内容3）GW				木村/古賀								
第12回	妊娠期における集団指導の展開（模擬マタニティクラス） 妊娠期の保健指導まとめ		模擬 出産準備教育（両親学級／母親学級） デモンストレーションとまとめ（教員は全員参加）				木村/古賀								
第13回			授乳指導												
第14回	沐浴指導		授乳指導（調乳指導含む）/育児指導の内容と方法				木村								
第15回			沐浴指導の内容と方法（退院後の沐浴について）												
第16回	産褥期における保健指導の実際		保健指導案の作成				鈴木								
第17回			授乳指導・育児指導・沐浴指導												
第18回	1か月健診時の指導		退院指導				鈴木								
第19回			集団指導と個人指導の例と考え方について												
第20回	1か月健診時の指導		1か月健診時の保健指導				高木								
第21回			今後の育児につなげるための個人指導の例と考え方について												
第22回	産褥・新生児期における保健指導		母乳育児外来の実際（パワーポイント）				高木								
第23回			ロールプレイ（授乳指導・育児指導・沐浴指導）とまとめ												
第24回	産褥期における保健指導の実際		思春期における保健指導、ピアカウンセリング、集団指導講義・GW				黒澤								
第25-26回	ライフサイクルにおける保健指導～思春期～成熟期～更年期～		成熟期・更年期における保健指導カウンセリング講義・GW												
第27-28回							黒澤								
第29-30回	助産学書		日本看護協会出版会 助産師基礎教育テキスト 妊娠期、分娩期、産褥期 4, 5, 6, 7、医学書院 助産学講座5 助産診断・技術学 I												
参考書	マタニティサイクルの実践保健指導（妊娠期）鈴木由美、マタニティサイクルの実践保健指導（産褥期）鈴木由美、丸善プラネット出版、参加型マタニティクラスBOOK 戸田律子 医学書院														
成績評価	単位認定	60	点以上	筆記試験及び講義、グループワークにおける積極性等を考慮する。											
授業時間外の学習履修のポイント	課題をクリアするためには時間外のグループワーク、学習時間が必須。														
オフィス・アワー	助産学実習における個人指導、及び3月に集団指導を実践するための基礎となる内容である。														
	平日の16：30-18時														

平成27年度 シラバス

科目名	地域母子保健		担当者	笠原佳代	学科	別科助産専攻	開講期	前期						
区分	実践領域	必修	単位 (時間)	1 (15)	学年		曜日							
授業の概要	地域における助産師の母子保健活動を展開するために、国、都道府県、市町村における母子保健動向を理解し、地域母子保健活動（目的、事業計画の立案、実施方法等）、地域組織活動育成支援等について学ぶ。 ロールプレイやグループワーク（KJ法）を通して基礎的技術を学ぶ。													
教育目標	助産師として地域の母子保健を推進するための基礎的知識を学ぶ。													
到達目標	1. 地域で助産師が展開する母子保健活動の意義を理解する。 2. 母子保健施策、法律、制度等を理解し、地域の特性やニーズを把握するための視点を理解する。 3. 母子を取り巻く環境やニーズの把握、個別支援、関係機関との連携と支援方法を理解する。													
授業計画														
回	主題		授業内容				備考							
第1回	地域母子保健活動の目的		1) 地域母子保健について 2) 地域の母子を取り巻く環境と現状、ヘルスプロモーション											
第2回	地域における母子保健活動のしくみ		1) 母子保健施策、制度、法律 2) 母子保健活動における個別支援方法、ロールプレイ											
第3回	地域における母子保健活動の展開Ⅰ		1) 地域の特性と関連業務 2) 地域のアセスメントとニーズの把握											
第4回	地域における母子保健活動の展開Ⅱ		1) 地域母子保健と関係機関との連携方法 2) 母子の教室運営方法（療育支援含）、グループワーク											
第5回	地域における母子保健活動の実際Ⅰ		1) 保健所における母子関連業務 2) 市町村における母子（障がい児を含む）関連業務と実際 3) あなたの町の母子保健活動（レポート課題）グループワーク											
第6回	助産師における地域母子保健活動の実際Ⅰ		1) 地域構成によりみた産褥期母子ケアにかかる潜在助産師調査と活動計画の策定と実際、ローリプレイ・グループワーク											
第7回	地域における助産師活動グループ支援		1) 地域組織活動の育成支援 2) 子育て支援システムの構築（障がい児支援を含む）											
第8回	これからの地域における助産師活動		1) 助産師活動について 2) ロールプレイ・グループワーク・全体のまとめ											
教科書	医学書院 助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健													
参考書	母子衛生研究会母子保健の主なる統計、わが国の母子保健													
成績評価	単位認定 60 点以上 単位認定 60点以上 出席、客観的試験（80%）、授業内課題（20%）による。													
授業時間外の学習														
履修のポイント	ロールプレイ（演習）、グループワーク（KJ法）													
オフィス・アワー	ご相談ください。一緒に考えます。													

平成27年度 シラバス

科目名	助産管理		担当者	鈴木由美ほか	学科	別科助産専攻	開講期	前期	
区分	実践領域	必修	単位 (時間)	2 (30)	学年		曜日		
授業の概要		助産業務・管理及び、病産院・助産所の運営の基本的理解と助産業務の評価を行い、調整できるための基礎を学ぶ。その上で具体的な手法としての管理のプロセスと、産科を取り巻く状況について学ぶ。また実際にトピカルな出来事を管理の視点から考える討議する。 助産管理の実践的事項として、病院や助産所の管理の実際、地域における母子保健活動を中心にして広がる幅広い活動や、困難な活動、国際化に伴う活動、危機対応を通して助産管理の特徴、法的責任、職業的倫理性を学ぶ。(オムニバス形式) 災害時における助産師の焼く阿割と援助を学ぶことで病院での助産管理や地域における母子活動を理解する。							
教育目標		助産師として業務を遂行していく上で必要な基本的な管理の原則、理念、法的責任、職業倫理の理解に基づき実際の病産院、外来、助産所での業務の展開について運営・評価・調整の基礎について理解できる。また、その時代が助産師に期待する困難な課題を含む役割についても認識できる。助産師として必要な基本的な管理を理解し、災害時の母子ケアの実際や災害援助のための教育や訓練の必要性を認識できる。							
到達目標		1. 助産業務。管理の基本について、その特徴、法的責任、職業倫理を含めて説明できる。 2. 助産管理プロセスについて理解できる。 3. 産科病棟・外来、助産所の管理運営とその特徴が説明できる。 4. 現代社会が助産師に期待する様々な問題を含む役割期待を認識し、現状と将来に向けた対応を考えることができる。 5. 助産師の就業継続や将来像について考えることができる。 6. 災害時、助産師としての役割と対応について考え、実践に役立てられる。							

授業計画

回	主題	授業内容			備考
第1回	助産管理の基本概念と活動の場	管理マネジメントの定義、産科外来、助産外来、母乳外来、専門外来と助産業務管理の概要			鈴木
第2回	助産師の職務満足/離職	マネジメントプロセス、動機付け理論、満足度、就業継続/離職			鈴木
第3回	近年のトピックスにみる助産管理 GW	近年75%以上を占める産科と他の診療科との混合病棟における助産師業務と管理について協議する GWと発表			鈴木
第4-5回	助産師のクリティカルパス	助産師のキャリアパス/クリニカルラダー 講義と作業			鈴木
第6回	明治～平成の助産管理の関係法規や母子保健制度の歴史	医療法、保健師助産師看護師法、母子保健法、母体保護法、児童福祉法、地域保健法、戸籍法、刑法、民法、労働法、就業規則法的責任と義務について			鈴木
第7回	助産業務管理の過程について	助産管理と助産業務管理、業務の査定、目標管理の実践プロセス、業務計画の策定、評価、目標設定			塩田利江
第8回	助産業務管理の方法と実際	組織管理、書類管理、財務管理、業務の質について			塩田利江
第9回～10回	助産所における業務管理の実際(1)～(2)	助産所の定義、管理者と義務、ハートシステム、ソフトシステムについて、助産管理の基本、安全の確保、医療との連携助産所の管理運営の実際について(経営、運営、リスクマネジメント、医療との連携等)及びアメニティについて			山本助産院伊藤充代
第11回	周産期助産管理システム(その1)	NICUにおける管理システム、母体搬送システム、オープンシステム			櫛田恵津子
第12回	周産期助産管理システム(その2)	周産期の医療事故とリスクマネジメント(周産期医療事故、助産業務におけるリスクマネジメント)			櫛田恵津子
第13回	災害と助産師	1. 災害とは 2. 災害時における看護 3. 災害時母子ケアの実際 4. 被災地の心的反応に対するケア			村田玉枝
第14回	産科棟における助産管理	人員配置、看護体制、労働条件、就業規則、勤務計画、アメニティについて、クリティカルパスについて			櫛田恵津子
第15回	外来の助産管理	産科外来、助産外来、母乳外来、専門外来と助産業務管理			櫛田恵津子
教科書	医学書院 助産学講座10 助産管理 我部山キヨ子ら編、講師により自作資料				
参考書	日本助産師会 助産業務ガイドライン2014 (HPからダウンロードしたもの/助産診断学、技術学でも使用)				
成績評価	単位認定	60	点以上	出席・客観的試験(80%)、レポート(20%)による。	
授業時間外の学習	助産管理の実際と病院・他施設等の助産活動の場を通して理解していく。				
履修のポイント	自律した助産師活動の要として位置づけられ、専門的助産技術の展開とは表裏一体をなしている点を理解できる。				
オフィス・アワー	平日の16:30-18時				

平成27年度 シラバス

科目名	助産学実習		担当者	鈴木由美、黒澤やよい 木村優子	学科	別科助産専攻	開講期	前期
区分	実践領域	必修	単位 (時間)	11 (495)	学年		曜日	
	産科棟実習においては正常が予測される妊娠婦婦及び新生児を受けもち、一連の助産過程を通して援助を展開し、評価、考察を行い次のケアへとつなげる。特に分娩期においては10例の分娩介助を行い、それぞれの分娩、産褥、新生児などの助産過程が展開できることを目標とする。 またそのうち1例は妊娠中期以降、可能な限り長期に受け持ち、産婦に合わせて分娩期に寄り添い、分娩介助後は退院迄及び1ヶ月健診までの母児の健康診査を行い、助産過程を展開する。 *実習中に経験した事例の助産過程をケーススタディにまとめ、発表し学習を深める。 ケーススタディは助産学実習終了後1か月を締切とする。							
授業の概要	NICUにおいては低出生体重児他何らかの正常逸脱をみる新生児を受け持ち、母子分離された状態からの母子関係構築の援助を行い、ケアの実際を学ぶ。また地域母子保健では家庭訪問や助産施設で実施している母子訪問などに参加し、地域母子保健の実際を学ぶ。一方で地域の妊婦とその家族を対象に集団指導を1クラス担当して実施する。 *助産管理、助産業務及び助産所の運営の基本的理解と助産業務の評価を行い、管理、調整の実際を学ぶ。助産所実習（選択）を経験した者は実習報告を行い、学びを共有する。							
授業時間外の学習	時間外の実習時間も必要となる。							
成績評価	助産過程、分娩介助評価表、保健指導技術、実習態度、出席状況などを総合的に評価する。単位認定60点以上							

平成27年度 シラバス

科目名	助産研究		担当者	鈴木由美 黒澤やよい 木村優子、古賀裕子	学科	別科助産専攻	開講期	前期～後期								
区分	総合領域	必修	単位 (時間)	1 (30)	学年		曜日									
							時限									
授業の概要	助産学に貢献できる研究（正常領域の妊娠褥婦、母性看護、助産学、ウィメンズヘルス等）について考える。助産の視点から研究の意義を理解し、研究の一連の過程を体得する。この科目は通年でありつぎのように勧める。①講義により研究計画を立案し対象者を設定し、模擬研究を実施する。②研究に於ける倫理を配慮する。③模擬研究では質的研究と量的研究の双方を体験し、データ収集、分析、考察、結果の順で体験する。④文献研究（レビュー、クリティック）について学び、卒業時までに研究論文を作成する。															
教育目標	助産学に貢献できる課題を見出し、倫理的に配慮しながら研究の一連の過程を体得する。文献レビュー/クリティックを通して論文の作成、発表、抄録の作成も体験する。															
到達目標	1. 助産学に関連した研究の目的、意義がわかる。 2. 助産学における研究のテーマが設定できる。 3. 手一マに沿った文献の検索ができる。 4. 検索した文献をクリティックできる。 5. 研究の手続きを知る。 6. 十分な倫理的対処がわかる。 7. 方法に合ったデータ収集ができる。 8. 適切な分析方法を用いて結果を抽出できる。 9. 一連の過程を経て論文が作成できる。															
授業計画																
回	主題		授業内容					備考								
第1回	助産研究の概要		助産師と研究について/研究テーマの検討について/研究の方法について					鈴木								
第2回	文献検索		文献の検索方法と収集					黒澤								
第3回	文献クリティック		文献クリティック（質的研究・量的研究・文献研究）					黒澤								
第4回	研究と倫理		研究者としての倫理的配慮について					黒澤								
第5回	研究計画書について		研究計画書の作成					黒澤								
第6回	量的研究		量的研究の方法、特徴について					古賀								
第7回	質的研究		質的研究、帰納的研究、ナラティブアプローチについて					鈴木								
第8回	データ処理について (1)		量的研究の単純集計集計について（主にExcel）					石井広二								
第9回	データ処理について (2)		量的研究の検定について（主にExcel）					石井広二								
第10回	ラベルワークについて		事例を用いて質的研究のラベルワーク（GW）					鈴木								
第11回	ケーススタディ		ケーススタディについて／ケーススタディのまとめ方					木村								
第12回	研究の実際		研究指導（担当教員 対 学生）					全員								
第13回	研究の実際		研究指導（担当教員 対 学生）					全員								
第14回	研究の実際		研究指導（担当教員 対 学生）					全員								
第15回	研究の実際		研究指導（担当教員 対 学生）					全員								
教科書	「臨床看護研究サクセスマニュアル」竹内登美子、（株）アンファミエ その他配布資料に基づく 医学書院 助産学講座1 基礎助産学 助産学概論、我部山キヨ子ら編															
参考書	日本看護協会出版会 わかりやすいケーススタディの進め方、 日本看護協会出版会、よくわかる看護研究論文のクリティック、山川みやえ他															
成績評価	単位認定	60	点以上	研究計画、文献検索、クリティック、文献研究論文で評価。文献研究は助産学実習開始前、または助産学実習終了2か月後を締切とする（担当教員が提出日を指定する）。												
授業時間外の学習	課題をクリアするためには時間外のグループワーク、学習時間が必須。時間調整をし、文献検索、分析などを行うこと。 文献研究は担当教員と連絡を取り合い、各自研究を進める。															
履修のポイント	助産学に貢献できるテーマの設定、目的、方法、倫理的対応、研究計画書、計画書に基づいた実施、ケーススタディのまとめ方の習得															
オフィス・アワー	平日の16：30-18時															

平成27年度 シラバス

科目名	不妊とケア		担当者	黒澤やよい 荒木康久 岡崎友香	学科	別科助産専攻	開講期	前期
区分	総合領域		必修	単位 (時間)	1 (15)	学年		曜日 時限
授業の概要	晩婚化・少子化などの社会的事情により不妊治療への関心が高まる中で、不妊カップルの現況を理解し、個々の対応に求められる助産師の役割を学ぶ。生殖補助技術(不妊治療の体外受精等)を用いた不妊治療の概要を学ぶ。							
教育目標	不妊症のカップルを取り巻く背景と不妊治療の現状を理解し、看護の方法を学ぶ。 不妊治療にかかる技術の実際を学び、臨床に生かす基礎を学ぶ。							
到達目標	1. 不妊カップルを取り巻く社会的状況を知る。 2. 不妊治療にかかる技術の実際を学び、臨床におけるサポートに必要な知識を習得できる。 3. 女性のライフサイクル(特に不妊)に沿った看護ができる。							

授業計画

回	主題			授業内容	備考		
第1回	不妊治療をめぐる諸事情 ①			不妊症とは、不妊症の頻度と原因、不妊治療の方法	黒澤		
第2回	不妊治療をめぐる諸事情 ②			不妊治療に伴う身体的影響、経済的背景	黒澤		
第3回	不妊と生命倫理			子どもを生む選択・子どもを育てる選択	黒澤		
第4回	不妊症の検査と治療			不妊治療の現状と不妊予防のための知識整理	荒木		
第5回	不妊症の治療			生殖補助医療の実際	荒木		
第6回	不妊症患者の背景			不妊患者の心理・社会的背景について	岡崎		
第7回	不妊症の看護(1)			受診前、初回受診時、検査時、治療時、治療終了時の看護	岡崎		
第8回	不妊症の看護(2)			不妊治療後の妊娠褥婦の看護	岡崎		
教科書	助産学講座2 基礎助産学 母子の基礎科学 医学書院、我部山キヨ子ら編						
参考書	不妊治療ガイドブック 医学書院、生殖補助医療技術学テキスト 医歯薬出版						
成績評価	単位認定	60	点以上	出欠と記録物、及び筆記試験、グループワークにおける発言の積極性、講義における積極性等も含めて60%以上の水準に達していること。講義、GWの取り組みなどの姿勢も考慮する。			
授業時間外の学習	新聞や報道等の時事問題に目を向ける。関連した体験記等の書籍を読む。						
履修のポイント							
オフィス・アワー	9~18時の在室時。kurosawa-ya@kiryu-u.ac.jp						

平成27年度 シラバス

科目名	国際助産師論		担当者	大久保麻矢 浅村里沙 (ジョイセフ)	学科	別科助産専攻	開講期	前期							
区分	総合領域		選択	単位 (時間)	1 (15)	学年		曜日 時限							
授業の概要	途上国の母子保健に関する問題と解決のための国際協力について教授する														
教育目標	途上国がかかる母子保健に関する問題とその原因を理解し、解決を目指す国際協力と助産師が果たす役割を考える。														
到達目標	1. 世界の健康問題を理解する 2. 途上国の小児保健の現状を知る 3. 途上国のリプロダクティブヘルス/ライツを妨げる要因を理解する 4. 母子保健向上のための国際協力と助産師の活動について知る 5. 途上国の母子保健を含むリプロダクティブヘルスの現状を知る 6. 途上国の母子保健を含むリプロダクティブヘルスの活動を理解する 7. 母子保健向上のための国際協力と助産師の役割について知る														
授業計画															
回	主題		授業内容				備考								
第1回	異文化 母子保健に関する統計		異なる文化を知る。 統計から世界中の母子の現状を理解する												
第2回	世界の保健医療問題 ミレニアム開発目標 (MDGs)		ミレニアム開発目標 (MDGs) に掲げられた乳幼児死亡率の減少、妊産婦の健康改善の達成を必要とする途上国の現状を学ぶ。												
第3回	女性が直面している問題について リプロダクティブヘルス/ライツ		世界中の女性が置かれている現状・問題を理解する。リプロダクティブヘルス/ライツについて学び、途上国でどのようにこれを保障するか考える。												
第4回	途上国での母子支援者について		多くの途上国で活躍している伝統的産婆 (TBA)について知り助産師との違いについて考える。												
第5回	第1回～第4回まとめ		世界の女性や母子が置かれている現状を再確認する。 助産師としての役割を考える。												
第6回	リプロダクティブヘルス/ライツと国際協力		1994年のカイロ会議以来注目されているリプロダクティブヘルス/ライツについて学び、途上国でどのようにこれを保障するか考える												
第7回	国際保健医療協力の概要		母子保健を含むリプロダクティブ・ヘルスの課題を解決するために行われている国際協力の概要を知る												
第8回	国際助産協力の実際		世界の人々に健康をもたらすための方策として提案されたプライマリ・ヘルスケアについて学び、地域保健活動の在り方を考える												
教科書	講師資料、医学書院 助産学講座9 地域母子保健、国際母子保健、我部山キヨ子ら編、Where there is no doctor(David Werner, Hesperian Foundation)、新版IPPFセクシャル/リプロダクティブ・ヘルス用語集、世界人口白書2014														
参考書	国際看護学入門 (国際看護研究会編、医学書院)														
成績評価	単位認定	60	点以上	レポートで100%評価											
授業時間外の学習															
履修のポイント	母子保健は途上国の健康問題の主要な部分を占めており、助産師の視点から問題を考えること														
オフィス・アワー															

平成27年度 シラバス

科目名	母子保健政策論		担当者	高橋マツ子	学科	別科助産専攻	開講期	前期									
区分	総合領域	選択	単位	1単位	学年		曜日										
			(時間)	(15時間)			時限										
授業の概要	講師が一方的に授業をする形式ではなく、学生の積極的な参加や質問を歓迎します。最終の評価はレポートになりますので、問題意識を持って出席してください。専門職助産師としての職業人生を考える上での基盤づくりにつながる授業を目指します。																
教育目標	助産師が専門職業人として法律や行政の施策の中でどのように位置づけられているかを知り、母子保健施策の変遷、施策の転換等で助産師がどのような歴史を歩んできたのかを知り、現在の急激な少子高齢化の進展の中で助産師として求められる役割を認識し、将来の助産師をどのように発展させていくかを考える、																
到達目標	1. 政治や行政のあり方を学ぶ 2. 保助看法における助産師の定義を学ぶ 3. 母子保健施策の流れと助産師の歴史を学ぶ 4. 現在の母子保健や家族福祉等に関連する問題点や課題や解決策を考える 4. 諸外国の助産師活動を学ぶ 5. 将来の助産師の発展のあり方を考える																
授業計画																	
回	主題		授業内容				備考										
第1回	行政の仕組み		行政、政治、司法などに関する理解を深める														
第2回	行政の実際		最近の行政の流れや助産師に関連するトピックス等の紹介														
第3回	助産師を規定する法律等		保助看法の定義や、助産師活動に関連する法律等の紹介														
第4回	母子保健の変遷と助産師の歴史		戦前から戦後の母子保健の変遷や、それに関連する助産師の歴史														
第5回	諸外国の助産師活動		先進国の助産師活動を知る、ニュージーランド、カナダ、アメリカ等														
第6回	母子保健等に関連する問題点や課題		グループ学習														
第7回	助産師職の発展のあり方		グループ学習														
第8回	自主学習		レポート作成準備のための個別質問等の時間とする														
第9回																	
教科書	医学書院 助産学講座9 地域母子保健、国際母子保健、我部山キヨ子ら編 母子衛生研究会母子保健の主なる統計、わが国の母子保健																
参考書																	
成績評価	単位認定 60 点以上																
授業時間外の学習																	
履修のポイント																	
オフィス・アワー	火曜日～木曜日																